

渋川ビオトープから

ふるさとの環境を見つめよう

草津市立渋川小学校

開校と同時期に地域・学校・行政が一体となって作り上げた「渋川のビオトープ」。ビオトープの自然をみんなの力で守り続けながら、子どもたちが環境の大切さを学んでいる。

1 学校の概要と「渋川のビオトープ」の目的

渋川小学校は、2003年（平成15年）4月に開校した。草津駅近くの小学校であり、周辺は、住宅や集合住宅、店舗等が多く、田畑などは減少している。そんな中で、緑の育つ場所やそこに生息していた生き物も失われてきた。

渋川のビオトープは、「かつてあったももとの風景」の再生・復元を目的としている。渋川のビオトープには、これから未来を生きていく子どもたちが主役であって、これからの地球環境が棲みよいものになるようにという願いが込められている。

2 実践事例4年

「渋川から、ふるさとの環境を見つめよう」

子どもたちが、自然とふれあうために地域・学校・行政が一体となって作ったビオトープ。4月。学習計画をたて、初夏のビオトープを観察した。ビオトープに棲む生き物を調べて「初夏のビオトープ図鑑」や「渋川環境マップ」を作る活動をした。また、「渋川ビオトープの会」会長の北川氏をゲストティーチャーに招き、ビオトープができるまでのことを教えてもらったり自分たちで調べたりしてビオトープづくりに関わった人々の工夫や努力、思いについて学んだ。

6月には、校区内を流れる伊佐々川を探検し地域の人の説明を聞きながらどんな生き物がいるかやゴミ等の様子について調べた。

7月。夏のビオトープを観察し、「夏のビオトープ図鑑」を作り、学校ホームページに掲載した。

9月。「ビオトープサミット」を開き、1学期に調べてきたことを、季節ごとやテーマごとにまとめ、整理し、プレゼンテーション形式で発表した。また、学習していて質問したいことをビオトープにいる北川氏にウェブカメラを使

って交信し、質問したり話を聞いたりした。

これらの活動を通して、子どもたちが身近な自然や環境を見つめ直し、大切に守り育てようとする気持ちを育ませることができた。

（子どもの感想より）

「もっとビオトープの植物や昆虫のことを詳しくわかるようになりたいです。そして、外来種の数を減らして、ビオトープの生き物が増えてほしいです。これからもビオトープを守っていきたいです。」



（ビオトープにいる北川氏とウェブカメラを使って交信しながら学習している様子。）

3 渋川のビオトープを活用した他学年の実践

< あおぞら（特別支援学級）生活単元学習 >

「ビオトープの生き物みつけ」

ビオトープの生き物見つけに出かけ昆虫や魚、木の実等の生き物を見つけた。身近な生き物への興味や関心を持つ子どもたちの様子が見られた。

< 1年生活科 >

「わたしのがっこうどんなところ」

学校探検の一つとしてビオトープを探検した。生き物の観察とともにビオトープは生き物のおうちであること。走り回ったりしない等の約束を学んだ。

「いきものとなかよし」

ビオトープには、人工の川があり、そこには

メダカ等の小さい魚やタニシ等の貝が生きていること。周りの草花や木にトンボやバッタ、蝶等の昆虫がいることを見つけた。そこから、どんな場所にいるかということやどうやって飼うかを調べたり実際に飼ったりした。

「はるをさがそう」

ビオトープで樹木の冬芽等から春を見つけたり感じたりする活動を行った。

< 2年 生活科 > 「生きものはっけん」

ビオトープやビオトープ以外の身近な場所にいる生き物を探しに行く計画を自分たちでたて、実際に生き物を見つけたり飼ったりする活動を行った。

「地域の名人見つけたい」

「渋川ビオトープの会」会長の北川氏をゲストティーチャーに招き、ビオトープに棲む動物や植物について学んだ。

< 3年 理科 > 「春の自然にとび出そう」

校庭やビオトープ、学校の周りの春の自然を探検して、いろいろな生き物を探し虫眼鏡を使って観察した。見つけた生き物の色や形に着目して、絵や文で記録した。また、発見したことを発表し合った。

< 5年 理科 > 「魚の誕生」

春、暖かくなってビオトープの川に棲むメダカがさかんに泳いだり見た目にも数が増えたりしていることを調べるため、実際にビオトープのメダカを教室で飼育してメダカの卵の変化やメダカが何を食べているか調べた。また、卵からかえったメダカをビオトープの川に帰すことでビオトープのメダカの数を増やして、メダカを守る活動につなげた。

< 6年 理科 > 「植物の体の働き」

「植物の体の働き」の学習で、ビオトープ内の植物を使って調べた。

「生き物のくらしと環境」

ビオトープの川にもブラックバスが発見されたことから、外来種が自然環境に影響を及ぼしていることをみんなで考え合った。

< 全校 > 「ESD ミュージアム」

各学年のこれまでの取り組みを展示した。保護者、地域の方にも見ていただいた。子どもたちも、他学年の取り組みを知ったり、自分たちの学習を振り返ったりし、ふるさと渋川の環境を大事にし守ろうとする気持ちを新たにす機会となった。また、その一部を草津市子ども環境会議に出品し、子どもたちが説明した。

4 全校へ働きかける環境委員会の取り組み

環境委員会は日常の活動として、ビオトープの水温調べや生き物観察をして、新聞にまとめて掲示をしたり、節電や節水と呼びかけるポスター作りをしたりして活動した。また、花壇への花植えを行った。

全校児童への発信として、かがやき集会（全校集会）で、環境クイズをしたり全校に環境標語を募集し、優秀作品を発表したりする活動を通して、「自然環境を大切にしよう」と呼びかける活動を行った。



(渋川のビオトープ全景)

5 成果と今後の課題

今年度から滋賀環境リーディング事業の指定を受け、「渋川を愛し、接続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成」に向け、ICT活用も取り入れながら研究を進めている。また、自然の再生というビオトープ自体の意義やビオトープがたくさんの人々の工夫や努力によってつくり、守り続けられているということ子どもたちは学んでいる。

子どもたちは、渋川のビオトープの観察を続けることにより、自分たちの住む地域の自然を守ることや、もっと広い意味で自然環境を守ることの大切さに気づき、まわりの人々に伝えようとする姿が見られるようになってきた。

これからは、渋川のビオトープを守る活動や地域の自然環境を守る活動に子どもたちが自主的に関わっていけるような学習活動やその発展学習をさらに進めていくことが課題だと考えている。

学校名	草津市立渋川小学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	(077)-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp